

令和3年度データサイエンス・ベーシックプログラム

実施状況外部評価報告書

1. 教育内容について

データサイエンス総論 I は、データサイエンスが必要とされている社会背景、データの種類、基本的なデータ処理方法やデータを扱う者が守るべき倫理事項など、データサイエンス教育の導入科目として必要と思われる事項が授業内容に含まれている。実際のビジネス/サービスにおいてデータ・AI 活用のもたらす価値についても示されている。

また、データサイエンス総論 II は、データサイエンス総論 I で学んだ手法について Python による演習を行うことで、基本的なデータ処理方法を身に付ける授業を実施している。

以上より、データサイエンス総論 I、データサイエンス総論 II で構成されているデータサイエンス・ベーシックプログラムの教育内容は、大学におけるデータサイエンス教育の導入として妥当なものと判断する。

データサイエンス総論 I 授業評価アンケートでは、約 4 人に 1 人が「身の周りや地域社会などの問題について意識するようになった」という回答をしており、データや AI により急速に変わりゆく社会について関心や課題意識を持つ学生が増えたと評価できる。

可能であれば、実課題を取り扱いデータ処理・分析の結果を判断し、どのように実社会に適用していくかといった計画から実行・評価までのプロセスを体験できる演習を取り入れていただきたい。

2. 修了者数について

令和2年度の修了者数が341人だったのに対し、令和3年度の修了者数は1,357人であり、修了者数が大幅に増加している。また、令和4年度はデータサイエンス総論 I が8学部で必修科目になることから、さらに修了者数が増加することが期待できる。データサイエンスは今後の社会においてあらゆる業種で必要とされる知識・技術であるため、学部に関係なく、今後も大学全体で修了者数の増加を目指していただきたい。

上記のとおり、新潟大学外部の方に点検・評価していただきました。

令和4年5月20日

新潟大学における情報活用及び数理・データサイエンス教育
に関する検討ワーキング・グループ